育成 モノづくり人材 Vol. 74

愛知県立春日井工業高校

地域挙げてロボ教材開発

名古屋市のベッドタウンの愛知県春日井市にある愛知県立春日井工業高校は1983年（昭58）設立で愛知県立では比較的新しい工業高校。今後の成長が見込めるロボット関連の教育に力を注ぎ、企業や大学と共同での教材開発などに取り組んでいる。移動式ロボット職種で在校生が初めて技能五輪全国大会に出場する予定で、生徒も技能を高めている。

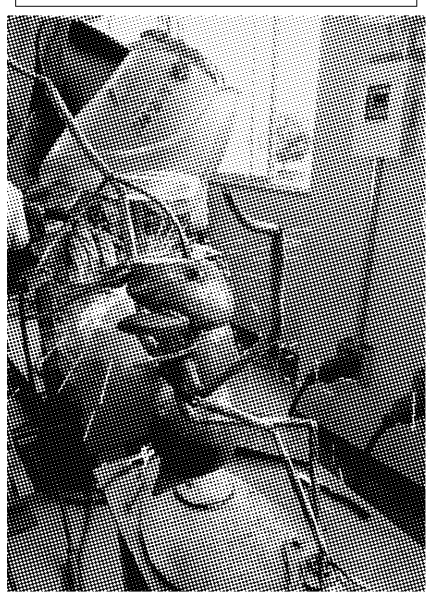
ロボット教育の教材開発では、愛知県の「あいちSTEM教育力強化事業」でロボット関連の企業や大学から支援員の派遣を受け、産業用ロボットの基礎技術習得やプログラミングなどで教員が指導を受けながら行っている。生徒がより高性能のロボットを製作し、高レベルのロボットエンジニアになれるようにするのが狙い。県の事業は2018年3月に終わるが、それ以降も支援員との取り組みは続ける方針。

山口校長

【DATA】▷校長＝山口直人氏▷所在地＝愛知県春日井市▷学科構成＝機械科、電子機械科、電気科、電子工学科▷生徒数＝807人▷主要設備＝マシニングセンター、フライス盤、産業用ロボット、3Dプリンターなど▷主な進路＝トヨタ自動車、オークマ、ヤマザキマザック、中部電力、JR東海、三菱重工業、新日鉄住金、名城大学、中部大学など

生徒が中学生を指導する機会も設けた。教育用プログラミングロボットの操作方法などを指導、10月には課題を設定して大会を開く。ロボットをきっかけに工業系に進学希望する中学生を増やす狙いもある。

ロボット以外の分野でも、3年次に自ら課題を見つけて解決を図る科目の課題研究や、部活動などを通じて生徒の技能習得の意識は高い。溶接では、愛知県内の工業高校生を対象にした競技大会で、鉄板などの曲げや溶接による作品の芸術性や独創性を競うアート部門で4連覇している。毎年異なるテーマが設定されており、生徒は溶接技術と創造力を高めて高評価の作品に仕上げている。



愛知県工業高校生溶接競技大会のアート部門作品を製作する生徒

電気工作部では小型コンピューターを載せた模型車の速さを競うマイコンカーラリーの全国大会で2年連続8位の成績を挙げている。また「地元とした連携した学び」（山口直人校長）では、どら焼き用の焼き印を小型切削加工機などで製作した。実際に企業が贈答用で使うものだけに、品質などへの意識を高く持って取り組んだ。

インターンシップ（就業体験）では「部活動に励んでいる生徒は同時に取り組み難い面がある」（同）として、7月に電子機械科の2年生全員が一斉に実施する日を設けた。全校で卒業生の約9割が就職するだけに、地元中小メーカーなどに出向くのが「地元の会社や技術力を知る機会になる」と、山口校長は意義を説明する。18年以降、他の学科にも広げる方針だ。

（名古屋・市川哲寛）

（金曜日に掲載）

無断転載・複写禁止 ㈱日刊工業新聞社